婦人と新社會

山田わか主筆

新年號

國際主義と國民主義

新婦人の意義と其の態度

利益衝突の社會——社會遺傳と社會改良——歐州大戰と現代社會——立法よりも行政——婦人と修養——學問と實際生活——分業と婦人の新しい義務——急進主義と保守主義——新舊の價値

米婦人參政權獲得の表裏

——獨逸の婦人代議士——

米國に於ける男女學生の比例

赤ん坊の良心

プロレタリアをかつぐ山川菊榮氏へ

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十一年十二月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第參拾五號　大正十二年一月一日發行

婦人と新社會發行

婦人と新社會

一月號

國際主義と國民主義

此の頃しきりに國際主義が稱へられていろ〳〵な國際會議が開催されます。たとへば、國際勞働會議とか、國際經濟會議とか、國際敎育會議とか、其の外いろ〳〵の國際會議がありましたが、併し、どれもこれも滿足な結果を持つて來たものはありません。そして、此の國際主義の中から生れて來たものは國民主義(ナショナリズム)でした。そして、これは當然なことでせう。なぜなら、眞の意味の國際主義を成長させるには健全な國民主義が存在して居なくてはなりません。

今迄の國民主義は皆俗惡な國際競爭の武器となつて居たのですが、國際主義の中から復活した國民主義は健全なる內容のとゝのつたものでなければなりません。で、さうするには一つの新しい國民の組織を要します。そして、其の第一步は國民の共同作用です。云ひ直せば國民の相互化、即ち利益の社會化を中心として其處に愛國的精神を蓄積することです。

それが建設されて、そして、理想國家が實現した時でなければ本當の意味の國際主義は成り立たないものであると私は信じます。



新婦人の意義と其の態度

利益衝突の社會　今日の社會は、實に、渾沌として居て、何が善であるか、何が惡であるかと云ふことさへも、一寸混雜して居ると云ふ狀態であります。

ですから、一體、今日の社會の本當の姿はどう云ふものであるかと云ふことを見定めようとすることは、他の言葉で申ますなら、今日の社會を細かく解剖しようとすることは到底不可能であるように思へます。

けれども、又、此の混雜な狀態の根本原因は何であるかと云ふことを考へて見ますならば、つまり、其の根本に溯つて考へて、そして一言で、申ますなら、それは利益の衝突と云ふことになつてしまいます。

社會も個人と同じような性質と同じような傾向を持つて居るので、其の傾向はその社會を構成してゐる人々の性癖、習慣、又は、衝動によつてあやつられて、そして、其れが表面に現れた時に、競爭となり、衝突となるのです。

一方は人を支配しようとするし、他の一方は人に支配されまいとするし、そして、其處には相互のいろ〳〵な氣質や習慣が付きまつはつて來て、そして猶一層强い競爭となり、衝突となります。

それから、又、他の一方には知力的、又は、同情的の分子がそれ等の競爭や衝突に相對時して居ます。

そして、これを社會から見ますならば、經濟關係に於ける利益の衝突、政治關係に

於ける利益の衝突、職業關係に於ける利益の衝突、教育關係に於ける利益の衝突、家庭關係に於ける利益の衝突となり、そして、それ等の利益の衝突は勢ひ前に申ました人の性癖や習慣や衝動が壓迫され、ツイには其の壓迫に耐へ切れなくなつて破烈します。あちらにもこちらにも其の破烈がある。そして、社會は混亂に混亂を重ねると云ふことになるのです。

あらゆる方面に於ける利益の衝突が今日の社會狀態を混雜させて居るのでありますが、其の利益の衝突に付て、一々例を擧げて見たいと思ひますが、さうして居たのでは餘まり長くなりますから、此處では、經濟關係に於ける利益の衝突と、政治關係に於ける利益の衝突とを極く簡單に述べて見ます。

一體、今日の產業の動機は利益を得ようと云ふ、つまり、儲けたいと云ふことであります。私共の生活に必要な品物を製造することは、營利を目的とする商人の衝動から發達した組織の下に行はれて居ります。ですから、或る少數の產業家は營利以外の

衝動をも感じて居るかも知れませんが、併し、今日の此の經濟組織の中にあつては、その衝動を有効に働かせようとすることはなか〳〵困難です。餘程、意志の强い人でなければ、今日の一般の傾向に反對して、自分の同情的な、理想的な要求、つまり、社會を益するように産業を營まうとすることは困難です。

もし、さう云ふ同情的な理想的な實業家が産業上、財政上、重要な地位を占めて居つてそして自分に反對する實業家を壓倒してしまうならば、其の時にこそ、經濟上の發達の道が順當に開けて、社會全般が利益を得ると云ふことになるのであります、併し、なか〳〵さう理想通りには行きません。

そして、始めは社會を益するように事業をしようと云ふ希望を持つて居たものでさへ、いつの間にか周圍の感化を受けて、矢張り世間なみの商人になつてしまいます。社會の利益などは計算の中に入れないで、自分の利益のみを計ることが、今日の經濟組織には最も都合がよいのです。そして、産業の新しい意義を明らかにしようとす

るあらゆる計畫は、皆、くびり殺されてしまいます。もし、さう云ふ社會のために惡い勢力がなかつたならば産業の發達は益々合理的に進んで、生産及び勞働は社會全般の幸福のために營まれるのでありますが、併し、さう云ふ狀態の實現は、まだ〲前途遼遠であります。が、とにかく、こう云ふ風に産業關係に於ける根本的衝突は、一方に於ては個人の營利を目的とし、他の一方に於ては、社會の幸福のために商業を利用しようとし、此處に衝突が絶へないのであります。

政治關係に於ける利益の衝突は、有産階級のうちの經濟上の利益の衝突でありました。

勿論、經濟に關係のない、たとへば、宗教團體、教育團體のようなものも政治上の衝突にからまつては居ます。けれども、其れをよく解剖して見ると、さう云ふ團體は衝突の要素ではなく、衝突に附着して居るのです。つまり、政治家達が自分等の主張する政策に宗教上、又は教育上の問題をうまく利用して居るのです。もう、一度、云

ひかへますと、自分等の政策が其等の精神上の問題や教育上の問題に好都合であるかのように見せかけて居るだけのものであるのです。

で、結局は、いつも競争して居る有産階級の人々が自分等の利益を保護し、増加させるために政府を自分等の手の中に入れようとします。

國際間の衝突と云つても要するに其の眞髓に於ては、異つた國々の有産階級の衝突に過ぎないものです。

けれども、此の頃になつてから、新しい現象が現れて來ました。そして、それは、無産階級が多數を頼んで、有産階級と爭ふことです。すると、又、一方では、無産階級の利益となる法律を造ることを約束して、そして、無産階級の後援を得ようとする政治家が出て來ます。

勞働組合と云ふものが出來る前には、勞働者達は、自分等は政治上は無力だと考へて居ました。けれども、勞働者の一部分が團結した時には、今度は、其の團體が單位

となつて、同時に、政治上の色彩を帶びて來ました。そして、それ等の勞働者の團體が殖へるに從つて、彼等は政治上に勢力を獲得して行きます。こうなつた時に、勞働者達は目覺めた經濟的單位であると同時に政治的の單位になつたのです。

そして、無產階級の團體は自分等に共通な經濟的の目的に目覺めて來て　有產階級の團體に肉薄し始めました。自分等の目的は團結した政治上の行爲によつてのみ達せられるものであると云ふ信仰を持つようになりました。

此の勞働の政治化と云ふこと、つまり、勞働者が政治を利用しようとすることは以前にも全く無くはなかつたのですが、先づ、現代に於て始めて現れた現象であつて、まだ、充分には發達して居ません。

處で．無產階級であれ、有產階級であれ、政治上の團體を造る以上は、其處には必ず指導者がなければなりません。そして、其の指導者には、又、二種の指導者が必ず現れます。其の二種とは保守的な指導者と進步的な指導者です。つまり、同情的、及

び、知力的の傾向に富んで居る知力階級を滿足させるには保守的な指導者を要し、又無經驗な、けれども、熱心な常に不滿を持つて居る無産階級を滿足させるには急進的な指導者が必要です。

此處で、考へて置きたいことは、以前はどうであつても、今日に於ては、保守主義及び、進歩主義の內容が非常に變り易くなつて居ます。ですから、革命主義が、むしろ、保守主義で、漸進主義が却つて進歩主義になつて居ます。其の理由はこうです。革命は多くの場合ひ、感情主義であります。感情主義のとる道は自然淘汰であり、從つて、それは保守主義です。これに反して、漸進主義は知力主義です。そして、知力主義は人爲淘汰であり、從つて、進歩主義であります。

そして、此の革命主義と漸進主義、則ち、感情主義と知力主義の衝突が今日の政治上の衝突であります。他の言葉を以て云ふならば個人の利益と一般の利益との衝突であります。

社會遺傳と社會改良　こう云ふ風に衝突ばかりである社會狀態を配景として、今日私共は生きて居るのです。そして、此の狀態を右に導くか？　左に導くかと云ふことが今日の先覺者の問題となつて居ます。

お話の順序として、此處で遺傳と云ふことに付て一寸申ますが、一體、遺傳と云ふことは模倣と云ふことで、これは個人的遺傳及び社會的遺傳があります。けれども、實を云ふと、まだ、遺傳に付ての本當のことは分つてゐません。本當のことは分つては居ませんが、併し新しい要素が加はることによつて、變化があると云ふことだけは確かです。そして、新しく加へられた要素が善良なものであれば善くなるし、悪いものならば悪くなると云ふことは誰にでも肯定出來る事實です。

其處で、前に申ましたような今日の社會狀態を改善するには、社會遺傳の中へ新しい善良な要素を注入しなければならないと云ふことになります。

處で、今日迄の社會改造に指導者として直接に加はつて居なかつたものは、先づ、

勞働者と婦人でした。殊に、婦人は殆んど全く社會改造の任に當つて居ませんでした。

で、今日迄加はつて居なかつた婦人が社會改造の仕事に參加して、そして、社會遺傳に新しい善良な要素を注入して行かなければならない時に、今は到達して居ます。けれども、其の婦人は、今迄の婦人のようであつては何にもならない、其處で、新時代の要求する新婦人とはどう云ふ種類の婦人であるか？　新婦人の意義を明らかにする必要が起つて來ます。

歐洲大戰と現代社會　これからの社會に必要な新婦人とはどんな婦人であるか？其のお話に移る前に、もう少し、今日の社會狀態に付て申ませう。

改造と云ふ言葉が流行して參りまして、あらゆる方面に其の言葉は用ひられて居ります。あれも改造しなければならない、これも改造しなければならないと云つて、何にもかも改造されなければならないように云はれて居りますが、此の何にもかも改造

されねばならぬような社會狀態になつた大きな原因の一ッは、遠因は何であれ、其の近因は、矢張り、あの歐洲大戰爭であります。

今日の社會を、たとへて見ると、それは丁度、大きな暴風雨に逢つた古い家のようなものであるのです。

隨分、古い家でも、もし、それが暴風雨などに逢はないで平和な日を送つて居りますならば、どうかかうか、其のかたちを保つて居りますし、其のまゝ家としての役に立つてゐても、もし、それが、ひどい雨にたゝかれたり、強い風に吹きまくられたりするならば、あちこちが破れてしまつて大修繕を加へなければならなくなりますし、或ひは全然新しく建て直さなければならなくなるかも知れません。

それと同じ意味で、もし、あの世界大戰爭と云ふものが無かつたならば、つまり、平和な狀態が續いて居たならば、今日の世界も在來のかたちのまゝで濟んで居たかも知れません。

けれども、あの世界大戰爭は歐洲を中心として、世界中を吹き卷くつた颶風でありました。歐洲の或る部分を破壞し盡して、そして、其の餘波が全世界を搖り動しました。勿論、我が日本も其の餘波を受けて、其の影響が甚しく、私共はもう今迄通りの仕方では幸福に生きて行くことは出來ないと云ふことになつてしまつたのでありますす。

今日の社會は產業が盛んでありまして、現代的と云ふことは產業的と云ふことでありますが、あの大戰爭と云ふ颶風の影響を最も強く受けたのは、此の產業の方面であります。あの大戰爭の結果は資本と勞働の關係が面倒になりました。資本家、並びに勞働者の不安となりました。其の不安が道德の腐敗となり、男女關係の亂れとなり、引ひては家庭の破壞と云ふことになりました。家庭は國家の基礎でありますから、家庭の破壞は取りも直さず國家の破壞と云ふことになります。

これを一言で申ますならば、あの世界大戰爭の影響を受けた結果、私共の在來の家

庭生活並びに國民生活の土臺にゆるみが出來たゝめに、國民全體が不安になつて來たのです。

立法よりも行政　あれもいけない、これも駄目だと云つて、何にもかもが改造されねばならぬ時に、今、到達したのであります。そして、今、一切を改造するに付て、先づ、第一に手を付けなければならないものは、國家の骨組みとなつてゐる法律であります。今迄の法律は、古い時代の人間を支配するには間に合つて居りましたが、新しい時代の人間を支配するには適當でない、いろ〳〵不都合なことが續出すると云ふことになりました。

けれども、此處で私共が考へなければならないことは、どんな完全な立派な法律が出來ても、もし、其の法律を運用する人物が正しくなく、そして、腕が利いて居ないものであるならば、立派な法律も何にもならないと云ふことになります。

これに反して、たとへ、法律は惡い法律でも、それを運用する人が正しい人であり

腕利きであるならば、國民の幸福を增進するに賢く運用して行くことが出來ます。のみならず、法律の改造と云ふことは容易な仕事ではありませんから、先づ、立法によりも法律を運用する方に力を入れた方が利益である。つまり、現代は立法の時代ではなく、行政の時代であるとさへ云つて居る學者があります。

處で、もう、一步進めて考へますならば、行政官に立派な人物が澤山あつて、國法を賢く運用し、國民の福利を增進するようにどんなに勤めても、もし、國民自身が暗愚であつて、法律の精神も行政官の努力も理解することすら出來ないならば、折角の法律も行政官の努力も無駄になつてしまつて、國民の幸福を增進することは出來ません。

婦人參政權の要求は、婦人が立法に參與しようとする要求なのですが、少數の婦人が立法に參與して、婦人の利益のためにどんなに立派な法律を造つても、大多數の婦人が其の法律を有効に活用することが出來るようになつて居なければ、其の法律も役

には立たないと云ふことになります。云ひ直せば、立派な法律を造るよりも、人物を造る方が、より重要であると云ふことなのです。

婦人と修養　其處で、私共國民に修養と云ふことが必要になつて參ります。

多くの人は、修養と云ふことは學校に於て完成されるものであるかのように考へて居ます。勿論、學校敎育も重要なものであるに相違ありませんが、併し、學校敎育だけでは決して充分でありません。

一體、敎育は家庭から始まるものであります。此の春のことでしたが、京鄕の敎育會で家庭から學校への要求は何にか？と云ふ質問が出ました時に、私は、『詳細に云ふならば、家庭から學校へ要求したいこともいろ〳〵あるが、併し、今日の場合ひ、大體に付て云ふならば、學校から家庭へ要求すべきことの方が多い筈だ』と云ふようなことを答へて置きましたが、實際、今迄は家庭敎育と云ふことが餘まりに等閑にされて居りました。

學校で敎員諸士が努力されるならば、或る程度迄の知識を兒童に授けることは出來ます。けれども、兒童の性格と云ふものは　重もに家庭に於て造られてしまうものです。つまり、三つ兒のたましいと云ふものは全く家庭に於て造られてしまうものであります。

偉い人間になる芽ばへも、くだらない人間になる芽ばへも、善人になる芽ばへも、又は、悪人になる芽ばへも、云ひ直せば、三ッ兒のたましいが家庭に於て造られてしまうことを考へる時に、其の家庭を司る主婦の責任がどの位ひ大きいものであるかと云ふことは明瞭過ぎる程明瞭になります。

一國家の運命は家庭の主婦達の双肩にかゝつて居ると云ふ言葉は決して誇張した言葉ではありません。

そんならば、家庭の主婦は家庭に對してどう云ふ態度を持つて居たならばいゝか、家庭の主婦達は、先づ其の態度を極める必要があります。そして、其の態度を極める

に付ては確實な人生觀がなければならず、今日の世界の狀態に付て一通りの了解がなければなりません。一切が眞暗で何にも見へないのではどう云ふ態度を取つていゝか分りません。

そして、確實な人生觀を造り、世界の狀態を知るには、主婦達は出來るだけ多く讀書する必要があります。讀書すると云ふことは、此の人生の旅を步む自分の足許を明るくするためにあかりを自分に取り入れると云ふことです。

此の世の中で、讀書の必要を最も多く持つて居るものは家庭を持つ主婦達です。次の國民を養成する、つまり、子供を育てゝ行くと云ふ、個人にとつても國家にとつても最も重要な使命を家庭の主婦達は其の双肩に擔つて居るのでありますから、家庭の主婦達は國家のうちの誰よりも聰明でなければならず、聰明であるためには、絕へず、讀書して、學者がともして置いたあかりを自分に取り入れて居なければなりません。

或る學者は申ます。『まつくらな森の中を提燈をつけて步くものが學者である』と。

つまり、多くの人が無我夢中で歩いて居る此の世の中をまつくらな森にたとへ、そして、學者の吐く言說を提燈にたとへたのです。

其の日々々々のことに追はれて日を送つて居る人間ばかりで、學者と云ふものが世の中に無かつたならば、實際、世の中はくらやみです。私共の生活の安全を計るために、私共の生活に誤ちがなく、其の上に幸福を多くするために、學者は每日々々私共の足許を明るくする提燈の火を大きくするために苦心して居ます。

處で、學者がどんな大きなあかりをとぼして居ても、もし、私共が其のあかりを借りて來て自分の生活のために利明しようとしないならば折角の學者の苦心も何にもならないと云ふことになります。そして、其のあかりを借りて來ると云ふことは學者の書いたものを讀むことです。即ち、讀書です。

本を讀むことの味を一旦覺へた人は、それが自分のために利益であり、利益であるから從つて愉快であります。ですから、此の世の中の何物にも代へ難くなります。い

ゝ着物を着るよりも、着物は寒くさへなければいゝから、本を買はう。うまいものを食べるよりも、お腹はすきさへしなければいゝから本を買はうと云ふことになります。

なぜなら、本を讀むと云ふことは其の本を書いた人と直接に交際することです。東の果ての自分のうちに坐つて居て西の果てに住んで居る人と話をすることが出來ます。又、何百年何千年前に生れて居た人と話をすることも出來ます。つまり、此の世の中に生きて行く上に於て、よりよく生きるために、自分は東の果てに住んで居て、西の果てに生きて居る人、又は何百年何千年前に生きて居た人の經驗を私共は敎へて貰ふことが出來るのです。

學問とは要するに人の經驗の結晶であります。それを自分の經驗と輝し合せて、そして、私共の歩んで行く道を見定めるのです。

學問と實際生活　處で、學問をすると云ふこと、又は、讀書すると云ふことは本當に必要な有益なものでありますが、それが本當に必要な有益なものであるだけに、今

迄は、それを餘まりに拜み過ぎてしまつて、それを利用すると云ふよりも、それに呑まれてしまつて居たと云ふ弊がありました。

云ひ直しますと、本を讀むと云ふことは、前にも申ました通り私共の生活を輝し、私共の足許を明るくするためであつて、つまり、私共の生活を補助するものでありますのに、併し、此の頃迄の若い人達は本を讀むために毎日の生活に必要な用事をするのを嫌つて居ると云ふ風がありました。

極端な例を擧げて申ますなら、田舍などでは、農家の子供で東京の學校へ勉强に來て居るものなどは、休暇に田舍へ歸つた時など、自分の親や兄弟達がまつくろになつて百姓をして居るのに、自分だけは唯東京の學校へ行つて居ると云ふ理由で、つまり本を讀むことを仕事として居ると云ふ理由で、もう自分は親や兄弟よりも高尙な人間になつて居るかのような顏して、眞白な手足を誇り顏に遊んで居ます。都會の娘達でもさう云ふ傾向があることを私は認めます。お母さんや姉さんが、うちでお臺所をし

たり裁縫をしたりして居るのに、さう云ふことは學校へ通つて居る自分達がするのには仕事が下等すぎるような顏をして居る娘さんを私は時々見受けます。其處へ行くと、たとへ、缺點はあつても米國人などは（これは一度云つたことがあるように思ひますが）親もシツカリして居るし、子供もものゝ本末を顚倒するやうなそんな馬鹿なことはしません。農家の子息ならば平生は大學へ行つて居ても、暑中休暇に歸省するならば、鋤鍬をもつて父親の手傳ひをします。都會の娘ならば、母親や女中を手傳つてすゝぎ洗濯もすれば臺所も家の掃除もして居ます。

讀書するために、家庭の用事を等閒にして家族の者に不都合を與へるようでは、それでは、讀書して利益を得るのでなく、却つて家族の者に厄介をかけることになります。

家をかたづけたり、お臺所をしたり、裁縫をしたりすることは私共の生活にとつて最も必要な、どうしてもしなければならないことであります。そして、それも亦學問

の一つであります。

さう云ふ毎日の實際の仕事と讀書することと兩々相待つて、其の兩方から知識を補足し合ふことによつて、私共の生活は豐富になり、充實して行き、高尙になります。

毎日の實際の生活を等閑にして讀書ばかりして居るならば、差し當り不都合なことが續出するばかりでなく、空想家になつてしまいます。空想家と云ふものは家族のものにとつても社會のためにも最も厄介な人間です。と云つて讀書と云ふことを少しもしずに、毎日の實際の仕事にばかり囚はれてしまつて居ると、他人の經驗と云ふものを少しも利用することをしない、つまり、自分が現在知つて居るだけの、極く狹い範圍に於ての知識だけしか持つて居ないので、いつの間にか時勢後れの人間となつてしまいます。

世の中と云ふものは、日に月に進歩しつゝあるものでありますのに、其の進歩しつゝある進歩の浪の上に乘らないで居るならば、いつの間にか世間の人から置き去りに

されて、『あれはもう過去の人間だ』と云ふような定評を下されて、自分自身の子供にさへも見下げられるようになつてしまいます。日に月に進みつゝある進歩の浪の上に乘つて萬人と共に歩調を合せて愉快に生きて行くにはどうしても讀書の力を借りなければなりません。全く無學文盲であつた私は二十四五才の時に考へました。自分も今に年をとつて此の顏が皺だらけになるだろうが、唯、毎日食べたり寢たり同じようなことをして居て、顏に皺が一ツづゝ〳〵殖へて行くのを待つて居てもつまらないから、皺が一つよれば一ツよつたゞけづゝ頭に何にかをたくわへて行かう。澤山ある皺の一ツ〳〵に意義あるように、云ひかれば五年生きて居れば五年だけ、十年生きて居れば十年だけ、それだけより多くの知識を頭の中へたくわへることにしようと決心しました。

勿論、讀書するようになつたに付いては夫のすゝめもあつたのです。私の夫は、シツカリした本を出來るだけ澤山讀めと私に命じました。そして讀書を私にすゝめる

理由は、若いうちはいろんなことに氣を取られて居るからいゝが年をとると淋しくなる。けれども、若いうちから讀書の習慣をつけて置くと年を取つてから居ながらにして世界中が見へるし、あらゆる事物に付て、はつきりした判斷がつくし、老年になつて何にも仕事が出來ないようになつても淋しくないから、今のうちにシッカリと新しい知識を得ると同時に讀書の習慣を造へて置くようにとすゝめて呉れたのです。

こんな風に始終何にかを書いたりすることを決して目的としたわけでなく、唯自分の一生を自分の思ふようにして淋しくなく送りたいと云ふ希望で本を讀み始めましたのですが、いつの間にか、何にか書くことが今日の私の生活であるやうになつてしまひました。

とにかく、今日の私共の生活は、胃ぶくろに食物が必要であると同じように、頭にも食物が必要です。食物がなければ體は衰弱して、ツイには枯れてしまうと同じように頭にも讀書と云ふ食物がないならば、思想と云ふものが益々貧弱になつて、ツイに

は枯れてしまつて、かたちは人間であつても、其の實質は動物と同じようになつてしまいます。

分業と婦人の新しい義務　一體、世の中は進歩すれば進歩する程分業と云ふことが盛んになります。

今の世の中は分業の時代です。殊に男の方の仕事は益々專問的になつて、專門の知識をどん〳〵積んで行かなければ競爭に耐へられないと云ふような時代に今はなつて居ます。此處で分業のお話を少しして見ます。極く〳〵昔の人間は、十人が十人百人が百人皆同じようなことをして生きて居ました。つまり、凡ての人が自分が生きて行くに必要なものを皆自分で造つたり取つたりして生きて居ました。農產物が欲しければ自分で田畑を耕し、魚が欲しければ、自分で魚を取りに行くし、薪が欲しければ自分で山へ行つて木を切つて來ると云ふように。けれども、人間は考へると云ふ力が授けられてあるので、自分一人でいろ〳〵な種類の仕事をするよりも、自分に適した、

そして、自分に慣れて居る仕事ばかりをして、餘まつたものを他人に讓り、又、他人から餘まつたものを貰つて、つまり、交換して自分の必要を滿すのが遙かに有利であると云ふことを考へ出ました。

其の結果、農產物を造るものは農夫となり、魚を取る專門家は漁夫となり、家を造るものは大工となるといふように、其の他あらゆる種類の分業となり、そして、又、專問家と專問家の間に品物を取り次ぐ商人と云ふものが出來ました。それから、又、人間が進步して來るうちに最も大きな分業となつて現れて來たものは外敵を防ぐための軍人階級、又は、人間の精神界を司るための宗敎家階級、或ひは、又、國民の敎育に從事する敎育家階級などであります。

國民の生活に必要な品物を造る人、外國から攻めて來る敵に對して國家を保護する軍人階級、及び國民の向上のため國民敎育に專心從事する敎育家階級と云ふように其れ〳〵分業が出來たことは能率を上げる點から非常に有益でありました。

そして、此の分業は益々細く、益々廣くなつて行く傾向であります。たとへば、最初、反物を造ると云ふ一個の分業が出來たとします。其の階級は先づ木綿で云ふならば綿を造ることから、其の綿を糸にすることから、其の糸を染めることから、とにかく、反物を造ることに付ての凡てを一手でやつて居たかも知れません。けれども、それがだん／＼細かく分業になつて、綿を造るもの、糸をつむぐもの、糸を染めるもの、反物に織るものが皆別々な人の手で取り運ばれるようになりました。

けれども、さう云ふように分業が盛んになればなる程人は一般的知識にうとくなると云ふ不利益が伴ひます。

そして、どうでも、こうでも、職業に従事しなければならない男子は、益々、專問的の知識を積んで行かなければ、烈しい競爭場裡に立つて行けないことになります。そして、專問的の知識を積んで行かうとすればする程、今も云つた通り、一般知識にうとくなつて行きます。

專問的の知識にばかり深くなつて行つて、一般的の知識にうといと云ふことは一個の人間としては不具者であります。ザラサストラはさう云ふ狀態を歎いて（本誌九月號にも書いて置きましたが）『世間には人間のカケラばかり澤山あつて、一個の人間としてまとまつた完全な人間はめつたにない。』と云つて居ります。つまり、多くの人間は或る一ヶ所ばかり發達させて居る不具者だと云ふのです。頭で仕事をする人は頭ばかり發達させて居るし、手で仕事をする人は手ばかり發達させて頭がないし、まるで、それは人間のカケラだと云ふのです。

其處で、專問的の職業に從事してゐる男子がさう云ふ不具者にならないように、それを救濟するものは婦人でなければなりません。さう云ふことが出來る婦人が本當に新時代にふさはしい新婦人であるのです。

婦人論の主張が何であろうと、今日迄の所謂新しい女の傾向が何であらうと、とにかく、婦人は先づ大體に於て家庭に入るものであります。そして、家庭の仕事は男子

そして、男子の職業のように細い專問に走らなくてもよいのですから、家事の餘暇に一般的知識をたくわへにしたいものです。

先づ、新聞を例にとつて云ふならば、夫は朝起きて食事をすますと直ぐに仕度をして自分の職業に從事しなければなりませんから、新聞を讀むとしても、唯、大體の出來事に目を通すだけでとても、其の日の論說が何であつたか、外國電報にはどう云ふ新しい事實があつたか、詳細に讀んで居ることは出來ません。其處へ行くと家にある婦人は、家事に暇をとられると云つても、併し、家事などと云ふものは、伸縮が自由自在になるものでありますから、よく考へて置いて時間を經濟的に使ふならば、新聞を丁寧に讀む位ひの時間は必ず出て來ます。

家庭の仕事と云ふものは非常に複雜であつて、主婦の時間は殆んど全部家庭の雜事

に奪はれてしまうように云はれて居りますが、勿論、家庭生活がもつと簡單に營まれるように工夫しなければなりませんが、併し今の處では、どうでもこうでも主婦の時間の全部が家庭の雜事に奪はれてしまはねばならぬものであるかどうか？　云ひ直せば、無意義に無駄に費されて居る時間も少なくないであらうと思はれる點もあります。

何にもならない、人の噂話に費される時間もありませう。必要でもない、唯、單に虛飾のために造る着物のために長い長い時間を無駄にすることもありませう。家庭内の仕事は複雜に無限に主婦の手を煩すものでありますが、それでも、主婦の頭の使ひ方によつては幾分かの餘裕は必ず出るものと私は信じて居ます。

今でこそ私は書くことが忙しいために、臺所の仕事や其の他のことを家族の外のものにさせて居ますが、今のように書くことに忙しくない時分には、つまり、家事の一切を自分でして居る時分には、朝、子供が眼をさます一時間位ひ前に起きて、子供が

眼をさます迄讀書して、そして、子供が起きると同時に本をふせて、子供の相手をしながら御飯をたいたり掃除をしたりしました。又、子供が晝寢をして居る間――子供がをんぶして居ようと、ひざに居ようと本を讀むにはそれは一向差し支へありません。又は、夜は、子供を寢せつけた後で私は讀書しました。

つまり、家庭を持つて居る婦人達が忙しくて讀書する暇がないと云ふのは、暇がないのではなく、暇を造らないのだと私は考へて居ます。病人があつたり、客があつたりした時は別として、平生ならば一日に一時間や二時間の讀書時間は、其のように工夫するならば必ず出來るものと私は信じて居ます。つまり、今の一般家庭の婦人は讀書が出來ないのではない、讀書する心がないのだろうと私は考へて居ます。

今迄はそれでもすんで來ました。けれどもこれからはそれではすまされません。前にも申ましたように、今日の社會は何にもかもが改造されねばならぬ時となつて居る。此の社會の姿が變らなければならぬ時節に到着して居ます。此の際に、婦人達が今迄

の仕きたりに從つて滿足して居て、自分から進んで新しいものを自分に取り入れよう自分の歩む道を輝すあかりを自分で取らねばならぬと云ふ覺悟を持つて、知識を廣くして行かないならば、婦人の最も大きな使命の一つである次の國民を養成すると云ふ任務を果して行くことは出來ず、專問的に流れて不具者にならうとして居る夫を救ふことも出來ず、却つて、夫のお荷物であり、又、成長した子供達のためには何にも分らない厄介な愚母となつて、一生を不幸に終らなければならない運命に陷ります。

急進主義と保守主義　世界漫遊をして來た私の夫は英國へ行つた時に、鐵道從業員組合の會長トーマス氏に逢つて來ました。此の方は國會議員であつて、英國では隨分人望のある、そして、有力な人でありますが　此の方の婦人論を夫は聞いて來ました。そして、それが私の日頃の婦人論と、よく、一致して居ますから、一寸御紹介して見ますが、同氏は婦人の職業には全然反對して居ます。婦人勞働が盛んな今日ではあるが、少なくとも、既婚婦人は全部家庭に歸らせたい。未婚婦人は自由であるけれども

併し、後には必ず母になると云ふことを考慮して勞働に從事して貰ひたい。事實に徵して見るならば、今日、死產の多いことや、產後の肥立ちが惡るく、母子共に夭折したりすることは、未婚時代に過度な勞働をして生理的に大きな傷害を受けて居る結果である。であるから、婦人勞働が人命を無駄にし、國家に損失を與へて居ることは莫大であると云つて居たそうです。

又、婦人參政權に付ては、婦人が參政權を持つて居れば、何にか重大問題が起つた場合には、さうしちやいけないとか、こうして貰いたいとか云つて婦人の意志を有効にするために役に立つであらうが、併し平生は、矢張り、婦人は政治の舞臺に立つて男子政治家と勢力の張りつこをするようにはならないだらう。なぜなら、婦人でも一時は花々しく政治界に乘り出すことが出來るかも知れないが、併し、婦人としての性質と、それから、婦人としての生活は結局婦人を家庭の中へ入れてしまう。

と云つたそうですが、さう云つたからとてそれは婦人が男子よりも劣つて居ると云

ふ意味ではない、男子と婦人とは活動する世界が違つて居ると云ふことなのです。

私の夫は、又、日本婦人と英國婦人とを比較して、日本婦人よりも英國婦人の方が遙かに保守的だと申ましたが、それはこう云ふわけになるのです。

英國と云ふ國は既でに今日の世界に於て最高に進步して居るし、國民は常識に富んだ實行的な性質を持つて居りますから、實行の伴はない理論に走るようなことをしない。他國の議論を聞いて、自國の實狀には無頓着に直ぐに其の議論に共鳴すると云ふような上ずつたことをしない。本當に健實に漸進的に進みつゝあるに反して、我が國の婦人達は、自分の足許を忘れて、他國の議論に直ぐに喰付いて行く。議論と云ふものは一夜で造つて一夜でこわすことが出來る。今日は此の議論を信じ、翌日は又外の議論を信じると云ふ風に轉々としてころがつて行くから、非常に過激に走ることになる。

けれども、英國婦人は、どんなに立派そうに見へる議論でも、實行が伴はないよう

な議論は信じないから、保守的に見へ、健實であるのだと云つてゐます。

實際、實行は保守的です。私の日頃の婦人論が保守的であるように非難する向きも世間にはありますが、併し、一夜でこはすような、そして、華々しい議論をするよりも、保守的でも、じみでも實行の伴ふ議論の方が有益であることを私は信じて居ます。

新舊の價値　最後に、私共が新時代の婦人として遜色がないように修養するに當つて、つまり、讀書に付いて、一言付け加へて置こうと思ひます。一體、讀書の目的は二つあります。其の一つは前にも申ましたように、私共が此の人生の旅を歩むに付て足許を明るくするためのあかりを得るためであつて、もう、一つは局部應用のためです。つまり、差し當りの仕事をするに付て役立てようがためです。例を擧げて申ますなら、今、染物をしようと思ふが其の方法はどうするのだらうとか？　電氣の作用を知つて置かうとか、思つて讀書することとです。

小說などは、いゝ小說ならば、そしてそれを單なる娛樂として讀むのでないならば、

矢張り、ともしびを得ることになります。他人の經驗を知つて、自分の經驗に其れを輝し合せて見て、そして、反省することが出來ますから。

いづれにしろ、いゝ加減なものをむちやくちやに亂雜に澤山讀んでも其れは効果がありません。又、新しいものばかり漁るのも利益でありません。僅かでもいゝですからシッカリした本を組織的によくがん味して讀むことによつて、其の讀書が自分の血とも肉ともなります。

此の頃の人には何でも、新しいものを選んで、古いものは顧みないと云ふような傾向もあるようですが併し百年古い本には百年の生命を保つ理由があり、千年古い本は千年の生命を保つ價値があつたから今に存在して居るのだと云ふことを私達は覺へて居たいと思ひます。千年も生命を保つには、其の間に、いろ〳〵なことに出逢つたでせう。或る時には嵐に逢ひ、或る時には火事にも逢つたでせう。けれども、燒かれても破はされても矢張り燦然とした光りは覆はれてしまはなかつた。そして、あらゆる

災害を通つて生きのびて來たのですから、さう云ふ本には必ずそれだけい價値があるのだと云ふことを私達は信じてい丶と思ひます。

各家庭の婦人達が有益な本を選定してたとへ二十分でも一時間でも讀書することを毎日の生活の一部とするようになつた時に、それが我が國の婦人の大きな進歩の一階段であり、家庭生活改造の根源であり、そして、其れが社會のあらゆる方面が改造される糸口であることを私は信じて居ります。

米國に於ける男女學生の比例

次代の母となるべき女子の知力を開發するため女子教育の盛んなる米國に於て中等教育を受けてゐる生徒の過半數は女子である　一九一五年から一六年に渡つて大學に入學した女子の數は九五四三六人。大學程度の師範學校及び農學校に入學した女子は九六〇九四人。學士と博士の稱號を得た女子が一二三〇二人。そして、今、現に大學に入る準備をしてゐる女生徒の數は男生徒の數に比較して七割二分、則ち、殆んど四分の三が女生徒である。日本の女生徒の大部分が感情の世界に生きてゐる。たとへば、文學の方へ心をひかれて居るに反して、米國の女學生は意志の空氣に生きてゐる。農科大學に入學する女子が多いと云ふことは彼女達が實際生活の知識の方に向ひつゝあると云ふことを語るものである。



米國婦人參政權獲得の表裏

——獨逸の婦人代議士——

米國婦人參政權獲得運動の表面に現れて居る事實は何であれ、其の裏面に横つて居た力は何であつたか？　又、現在の獨逸社會黨共和國の婦人代議士はどう云ふ風に、どう云ふ人物が選まれて居るかに就いて、少しく話して見ようと思ひます。

で、先づ、第一に注意を要する點は、婦人參政權に就て考究し其の必要を宣言した人と、實際運動にたづさはつた人と運動の資金調達のために奔走した人と、それから、いよ／＼婦人參政權を獲得した曉に於て、議員候補者となつた者、それ等の婦人達が皆其の屬する階級を異にし、參政權に關する意見をも異にして居たと云ふ事實であります。

とにかく、米國婦人參政權獲得運動の表面の徑路をお話するならば、米國に於ける婦人參政權運動の祖先スザン・ビー・アンソニー孃の死の前、則ち一九〇六年に於ては、參政權運動者は州の議會に向

つて其の努力を集中して居ました。つまり、洲を一つづゝ〱説得して行つて、そして米國全土に及ぼそうとする計畫でした。ですから、州政府を說き落そうとする運動は猛烈で、執拗で、倦むことを知らぬ勢力でありましたが、それに反して、中央政府の所在地なるワシングトンは誠に靜かでありました。

　米國々民婦人參政權協會はワシングトンに請願委員を置いたばかりで、本部を置いたのではなく、唯、委員を其處に置いて、國會開設の度每に上院下院に議案を提出することにして居ました。そして其の議案を議會へ紹介する議員の紹介演說は筆記され印刷され宣傳用に用ひられ、四方八方に郵送されました。

けれども、婦人參政權に必要な憲法修正案は一度も議題に上らされませんでした。尤も一八八七年に上院に於て、一度採擇になつたことはありましたが其れ以來、上院に於ても下院に於ても、全く顧みられずに居ました。婦人參政權問題は上院下院を通じて議員の口の端にも上らなかつたのであります。

　其れに加はふるに、其の時の大統領ウイルソンは表面には反對をしなかつたにも拘らず事實に於ては決して好意を持つては居なかつた。故に、決して便宜を計ろうとはしなかつたのです。其の上に、又合衆國の二大政黨、卽レパブリキャン黨もデモクラツト黨も婦人參政權には反對して居て、勿論、其の二大政黨の主領も

この問題に關係することを避けて居ました。

ですから、婦人參政權論者の大多數は其の憲法修正案が事實上議會を通過することは考へて居ませんでした。

けれども、其れに反して、州の議會に對する運動は活氣盛んで、運動員達は寢食を忘れて奔走しました。其の結果、ワイヨーミング州、コロラド州　ユタ州、アイダホ州、ワシングトン州、カリホルニア州の六州に於ては婦人參政權が許されました。そして、其の次には、一九一二年に於て、オレゴン州、キャンサス州及びアリゾナ州に於て、又、婦人參政權が許されましたが、この九ヶ州に於ける婦人の勝利は合衆國に於ける婦人參政權運動に新しい意義を齎しました。

なぜなら、其れによつて、凡そ二百萬人の婦人有權者が出來て、上院議員の五分の一、下院議員の七分の一、大統領選擧に對する六分の一の勢力が婦人の手に歸した事になりました。

そして、其の年の十二月でした。前に一寸申しました米國々民婦人參政權協會の請願委員の委員長としてアリス●ポール孃がワシングトンへ來て活躍し始めたのは。そして、此の青年婦人ポール孃は一九一二年から一九二〇年迄の八年間に五萬の會員を有する新しい政黨を造りました。ワシングトンに其の本部を設立したのですが、同時に、彼女は七十五萬弗の資金が必要でありました。そして、こ

れが米國に於ける新しい勢力の中心となりました。彼女は、又數百名の熱心なる共働者を糾合する必要を感じました、そして、或る者は無給で、或る者はほんの僅かの手當で多くの婦人が彼女に共力しました。

彼女等は、それ迄も政治界に於て折々用ひられて居た手段の一つを用ひる事にしました。則ち其の時の政府黨派に婦人參政權獲得の成功不成功の責任を負はせると云ふ政策でありました。

同時に、ポール孃の活躍は目ざましいもので、一例を擧げるならば、其の當時の新聞紙は其の第一面を必ず世界大戰爭の記事で埋めるのが通例であつたにも拘らず、それ等の戰爭の記事を押し退けて、婦人參政權運動の記事で其の第一面が埋められた程、參政權運動が烈しかつたのです。五萬の會員達は西から東に、北から南に狂奔して、婦人參政權運動は全く白熱化して來たのでありました。

其の結果、長い以前にスザン●アンソニー孃によつて始めて要求された婦人の參政權に必要な憲法修正案は始めに下院を通過し、然かる後に上院を通過したのでありました。併し、いよ〳〵憲法修正案を通過させるには三分の二以上の州、則ち三十七州に其れを批准させる必要があり、しかも、一年半のうちに其の批准がなければなりませんでした。

其處で、大統領は、むしろ、内心は不贊成であつたのですが、併し、勢ひ贊成

しないわけに行かなくなつて、ツイに上院を通過させる必要な最後の一票を與へました。此處に於て、婦人參政權運動はとう〳〵成功したのであります。

これが、先づ、大體に於ける參政權獲得運動の表面の經路でした。けれども、此の運動を此處迄進めるに付て、第一に必要なものは金でありました。第二には多數の運動員でありました。そして、其の運動員を得るに付ては矢張り金が必要でありました。第三には新聞紙の後援が必要でありました。新聞の後援を得ると云ふことは新聞を買收すると云ふことで、これも結局金の問題でありました。其の次には或る數の州議會に贊成させなければならなかつたのですが、さうするには議員を遊説して歩く必要がありました。そして、これも、又結局は議員を買收することであつて、矢張り金が必要であつたのです。

さて、それ等の凡てに必要であつた金は一體誰が出したか？ 此處に於て此の文の始めに云つた通り、婦人參政權の必要を宣言した人と、其の參政權を現實のものとなした人とは全く別な人であることが明らかです。たとへば、ギルマン夫人とか、ジエン・アダムス女史とか云ふ學者が婦人參政權に付いての眞理を述べました。けれども、此の學者達は其れを實現する人ではなかつたのです。彼女等は唯、其の必要の芽を植へ付けるに止まつたのです。

それから、それを實現するに必要な金を出した婦人達に付て考へて見ると、これは純粹な動機からではなく、社交界に名を馳せようとする手段であつたのです自分の名を歌はせる手段として其れを利用しようとしたのが案外成功したのでした。つまりこれ等の婦人が働いたと云ふことは金を出したと云ふことです。

アリス●ボールと云ふような火のかたまりのやうな熱狂的運動家と彼女を取り卷く五萬の有給無給の助力者とを社會と云ふ舞臺の上に踊らしめた者は、社交界の花形とならうとして惜しまず金を出した婦人達であります。それ等の婦人達が金と云ふ石炭を燃やし、動力を起し、其の動力によつて運動員達は踊りぬいたのであります。

其處で、それ等の運動員に其の動力を起す處の石炭　則ち金を供給した婦人に付いて少しばかり考へて見ませう。勿論金を持つて居る婦人でありますから、其れは中流以上の婦人達です。米國で中流以上の婦人と云へば、大抵は實業家の家庭の婦人で、夫婦共に財産家です。合衆國では親の財産を子供の數に——男女を問はず——平等に割り當てる制度ですから、婦人も男子と同じように親の財産を讓り受けて男子と平等に財産を持つて居ます。そして、彼女等は皆相當の邸宅を構へて、家には料理人、給仕、中働き、お針、洗濯人、子供の數だけの乳母を抱へて居ます。中には主婦が其等の雇人を

指揮して家事をとつて居るものもありますが、大抵の場合ひ、主婦は家事には無關心です。

そして、大抵の主婦は夫が事務所へ行く前に床を離れて夫と一所に朝食を取ると云ふことをしません。夫が出かけた後で寢台の上へ朝食を運ばせます。それから、ゆつくり仕度をして買物に出かけます。買物から歸つて晝飯をすませた時分には髮結だのマニキユラー(理爪師)が來て彼女のお化粧に取りかゝります。そして盛裝して訪問に出かけます。今日は何夫人の訪問日、明日は何夫人の訪問日と定まつて居るのです。そして訪問を受ける夫人の邸宅に集まる者は十人或ひは二十人、多い時は何十人と集ります。話題は流行の服装、髮の結方、帽子の型などで、もう少し進んだ婦人達の間ならば、音樂、文學などが話題となります、婦人參政權問題がこれ等の婦人の間に取り入れられました。そして婦人參政權が權利の單なる防禦であると云ふ單なる想像から、又、一つには出費の多寡によつて交際社會の勢力範圍が定まると云ふ考へから、もう一つには、婦人全般の利益のために出費すると云ふことによつて、無產階級婦人の恨みを融和する手段となると云ふ希望から婦人參政權運動の費用金は集められたのです。

婦人の參政權はいよく認められて、いざ婦人代議士の候補者を選定することになると、選定される婦人は單なる學者

ではありません。どうしても其れ等の社交界の後援を得るか、或ひは、其れ等の社交界の中から出ると云ふことになりますこう考へて來ると、先づ、大體から云つて、無論、例外はあるが合衆國の婦人代議士の候補者は、家庭が何であるか？　つまり、次代養成の責任を實感して居ない女流學者か、さもなければ、家事の一切を、子女の養教育迄をも雇人の手に任せて社交界を游泳して居る有産婦人であると云ふことになります。そして、これ等の婦人達が一般國民に今よりもよりよく滿足を與へるような立法者となり得るかどうか？　大いに疑問であると私は思つて居ます。

獨逸の婦人代議士に付て委しく述べたいと思つて居ましたが、もう、餘白がありませんから、唯、其の結論のみを此處に付け加へて置くことにします。獨逸には婦人代議士が四十人近くあります。けれども、其の大部分が社會黨婦人ではなく、資本家階級の婦人であることは何を語つて居るでせう。理論と實際との間には其處に大きな隔りがあることを思はされます。且つ、又、獨逸政府は名こそ社會黨の共和國でありますが、其の內部の事情から察すると、今の政府は資本家と結託して一方には勞働者に當り、他の一方に於ては等しく有勢なる舊帝國派に當らなければ存在が危いと云ふ狀態なのです。ですから今の獨逸の社會黨共和國は以前と同じ資本主義の國家です。

して見たならば、婦人代議士が資本家階級から出ることは少しも怪しむに足りません。そして、彼女等を選出する有權者達の大部分が、以前彼女達に使はれて居た下女下男、或ひは、何にかの關係で彼女達に目をかけられて居た者であることを考へる時に、理論一片ではどうすることも出來ない或る優勢なものが此の社會に存在して居ることを認めないわけには行きません。



赤ん坊の良心

子供の教育と云ふものは、いつ頃から始めるのが最も適當であるでせうか？

子供は生れた時には天使のように純潔であるけれども後に世間が墮落させるのだと云ふ說があります。又基督教徒が云ふように、生れた瞬間から道德上の罪人であると云ふ說もあります。或ひは、又、赤子には全然良心がないと云ふ說もあります。

これ等の說のどれもが一時は信じられて居ました。そして、今、猶、信じられて居ります。けれども、恐らく其のどれもが眞理でないかも知れません。で、次にそれ等の說を修正して行く明らかな事實を少しばかり摘發して見たいと思ひます。

赤子は、赤子には全く了解出來ない或る命令の下に航海して居る社會と云ふ船の中で生れたようなものです。けれども、赤子は其の船の中で生きて行く上に於ての作法を知りません。赤子にとつては感ずることと行動することが同時です。そして、爲すべきことゝ爲すべからざることゝを赤子が學ぶのは非常に徐々たるものであります。しかも一度に一つしか學ぶことが出來ません。赤子の心は正しいものでないかも知れませんが、併しその正しいと思ふものは私共大人が正しいと考へて居ることであつて、それが間違ひのない本當に正しいものであるかどうかは疑問です。

赤子自身には善惡の區別はありません。赤子が善及

び惡の標準を知るようになるのは可なり大きくなつてからです。けれども、赤子は私共大人に向つて、驚くべき程鋭敏に常に二つの質問を投げかけて居ます。其の一つは「あなたはあなたの云ふことを本當に意味して居るのか?」と云ふのと、もう一つは「あなたは私の泣き聲に本當に負けないか?」と云ふのであります。そして赤子の其の質問に對する大人の答へが赤子の生活を支配する法律となります。

何處の國でも毎年々々いくつかの法律を造ります。そして、其の法律の多くは混雑した黨派的のもので非常に解釋に困難な時があります。其の上に處々に矛盾があります。

赤子の生活を支配するために大人の造る法律も其れと同じような場合が度々あります。たとへば、赤子が或る日水の中へ手を入れて遊びます。最初の日は其れが許されて居ます。けれども、其の翌日は禁じられます。かと思ふと其の又翌日には默許されます。すると赤子は、自分自身の結論を造ります。「自分達を支配する法律と云ふものは妙なものだ。何でも、あんまり表向きにしないで、こつそりやれば法律を破つても不都合ないのだ」と云ふやうな。

ですから、兩親が注意すべき最も重要なことは、徹底的によく考へて、自分等の信ずる原則を事實にあてはめて見る必要があります。つまり、子供が、今現に爲しつゝある時よりも、子供がさう云ふことに手をつけない前から又は其のことを爲し遂げてしまつた後にそれに付て兩親は干渉を試みるのが最も安全です。

一體、動物の子は一度に澤山生れますが、普通人間の子が一度に一人づゝ生れて來ることは、子供の教育上、自然に對して私共は感謝すべきであります。たまには、三ツ兒などと云つて一度に三人も生れることがあることを聞きますが、有福でもない家庭に一度にそんなに子供が殖へたのでは、到底、充分な養育が出來ません。其の一人々々が或る才能を持つて生れて居るかも知れません。一人は哲學者に、一人は音樂家に一人は實業家になる可能性を持つて居るかも知れません。そして、適當に教育されるならば、子供同志で教育し合ふやうにもなるかも知れません。けれども、儀

じくないやうにすることに手一杯であるならば、子供の德育などと云ふことを考へる暇が到底兩親にありません。

貧乏な家庭の母親も子供の世話に自分の最上を盡します。そして、彼女は多くの子供に對して甚だ單純な規則を持つて居ます。たとへば、夜、ねどこに入れる時などはかたツぱしからピシヤ〳〵叩いて寢かしてしまつて、そして、繕ひものをする時間をつくるのです。

餘裕のある母親のみが子供の可愛い顏を眺め入る時間を持つて居ります。そしてさう云ふ母に育てられた子供のみが、多くの場合、人類を稗益するような人物となります。

赤子が生れて十七八ヶ月の間は、赤子の性質は全くそば次第です。寢せて置けばよいものを抱いて見たり見せなくてもよいものを見せたり、云はずとものことを云つたり、人に見せびらかしをしたり、かくして赤子の心をタイラニーにしてしまうのです、赤子は親にさう仕むけられることによつて益々タイラニーを實現して行きます。

赤子は一人置かれた時に、泣きさへすれば誰かしら抱いて呉れることを發見します。すると、其の次には前よりも一層大聲に泣きます。又、ねだりさへすれば何でも貰へることを發見した時には度々々々其れを繰り返へしツイには親の仕末に終へないようなことになつてしまいます。

赤子が最初に現す惡いことは怒りと嫉妬です。サリーと云ふ兒童心理學者の話によると、赤子は生れて三週間たつともう怒りを知つて居ると云ふことです。けれどもペレツの研究によると、赤子は生れて二ヶ月の後に始めて怒りの感情を現すと云つて居ます。どう云ふ風に其れを現すかと云ふと、自分の好かない人を押し退けたり、手に持つて居るものを取られると、大聲あげて叫んだりします。ペレツの「兒童心理」のうちに次のやうなことがあります。

「十一ヶ月の赤子が、祖母の鼻を自由に弄ばせないと云つて非常に怒つたのを見たが、其の祖母は或る時子供に對するおせじに自分の鼻をつかませたのだらう。始め一度や二度は鼻を弄ばせることが出來ても、始終

では困るのだらう。けれども、一度それを許された赤子は祖母の顔を見るたびにさうしなければ承知しない。そして、怒る。」と。

實際、赤子にとつては、人の鼻をひつぱるのも、燐火を持つて遊ぶのも外の玩具を持つて遊ぶのと同じやうに考へて居ます。けれども、親の方では人の身體の一部分や危險なものを持つて遊ばれては困ります。けれども、最初から其れを考へて置かないと、赤子の怒ると云ふ性質をだんだん大きくして行くことになります。赤子が怒ると母は困つた子供だと思ひます。けれども、其の怒る性質は母が造つたものであることを考へなければなりません。

赤子の嫉妬と云ふことは、誰でもがよく目擊する事實です。自分と同じやうに養はれて居る子供を苦い顔して眺めたり、母の膝の上に外の子供が抱かれると怒つたりするのはよくある事實です。

又、人の弱點を利用することを赤子は學びます。一度、泣くのを止めた赤子も、同情を得るために、もう一度泣き出すと云ふことをします。涙も出ないのに大口をあけて大聲をあげます。そして周圍の人が果して自分に同情したかどうかを見るために、少しばかり目を開いて周圍の人の顔を盜み見します。

それから、大抵の子供は滿二才位ひになると其の性質に變化が來ます。歩いたり、話したり、よち登つたりするやうになると受動的にはをとなしくないが、能動的にをとなしくなつて來て勇氣も出て來ます。そして、德育と云ふことがだんだん難しくなつて來ます。つまり、少し位ひの困難には耐へる忍耐力も出來て來るし、又、愛情も現すやうになります。

子供の良心はいつ頃から働き出すものであるかは、まだ學者にもはつきりしたことは分つて居りませんがペレッは生れて七ケ月後だと云つて居ますし、ダーウインは十三ケ月後だと云つてゐます。勿論、これは良心と云ふことに對する定義の問題でありますが。これを消極的に見るなら、子供は禁じられたことを早く學ぶものです。だが、親が子供に禁じたものが、果して不正なことであるかどうかは疑問です。つまり、砂糖をなめることを、もし親がすゝめるならば、子供が砂

糖をなめることに正しいことであり、もし、親がそれを禁じるならば子供の其の同じ行爲が不正だと云ふことになります。

桶に一杯ある水をはねかすことが正しいことであるか、不正なことであるかと云ふことも、唯、親の考へによつて定まります。いたいけな子供が、自分の爲しつゝあることに對して親が何と思つて居るかを見るために親の顏色を判斷しようとして居る處は實にいじらしくも可愛いものです。赤子は親が其れに賛成して吳れゝばいゝと望んで居ます。併し、其れに對する母の判斷が正しくあらうと間違つて居ようと、それは子供に對する法律となります。

けれども、積極的に見るならば子供の德義心は滿二才にならない前から現れて居ます、たとへば、或る目的のためには、自分の好まないことでも子供は其れを成し遂げようとします。自分には到底重も過ぎて、其れを動かすには隨分骨が折れるものでも、併し、其れを母の傍迄、引つぱつて行かうと努力したりしますがこれは、確かに子供にも功名心がある證據で、則ち良心があるのです。

生れてまだ幾日もたゝない子供に、私共は、よく勇氣と努力とを發見します。赤子が頭を一生懸命擡げるのは、あれはアンビッションの第一步です。それが將來の功名心となるのです。

其の次には、赤子は坐ることを學びます。倒れまいとする其の努力は勇しいものです。けれども、本當に坐れるようになる迄には或る一ツの行爲が必要です。そして、其れは足の親指を口に入れようと努力することです、足の親指はなかなか口に這入りません。けれども、或る赤子は、たくみに足首を持つて親指を口に屆かせます。そして、これは自分の肉體の一部分を自分で自由にしたことになります。それが出來るようになり、そして、坐はれるようになると其の次には、這ふ術を覺へるために努力します、此の努力も矢張り功名心の一つです。

坐つて居て、向ふにあるものを取りに行かうとする。すると、前へのめつてしまう、けれども、のめることが彼をして目的物に近かよらしめる。彼は其れに力を

得て、一層努力を強くする、自分の體をゆすり〳〵してつぃには四ツン這ひになつて這ふことを覺へます。且つ、又、自分の目の前にあるものを向ふへ投げて、そして．其れを再び取るために苦心します。これは人間の一生にとつて非常な大切なことです。なぜなら、目の前のことに滿足してしまつて居たのでは進歩と云ふことがありません。目の前のことに滿足しないで、理想を遠い處に置いては其處へ到達するために努力する。これが人間の向上の秘訣です。そして、此の秘訣を人間はやうやく這ひ出そうとする時代に學ぶのです。

其の次の赤子の努力は立たうとすることです。そして一人で立てるようになると赤子は非常に喜びます。けれども、折角立てゝも、又、ころぶならば赤子は口惜しがります。こう云ふ時分に、もし、しりもちをついても赤子は痛がりません。立たう〳〵と努力して居る時には玩具には無頓着になります。人間の一生を通じて危險な仕事に耐へて行かうとする勇氣は此處から始まるものです。

其の次ぎには歩むことです。これは、這はうとし、立たうとするよりも赤子にとつては非常に危險が多いものです。第一の歩みの目的は自分とは離れた處に居る母の傍に行かうとすることです。そして、これは最も强い勇氣の表現です。此の時には小さい額も緊張して歪みます。そして、それは、冒險的な大膽な決心とそれから危險である　要心しなければならないと云ふ保守主義的な氣持ちとの爭ひを示して居るのです。で、いよ〳〵勇氣ある決心が勝つて第一歩を踏み出そうとしても、足はなか〳〵思ふやうには上がらない。唯足を引きずつて居るだけです。そうして少なくとも、片足を伸して倒れないように平均をとつて居ます。

此の平均をとつて居ると云ふことが本當に進歩して行く順序です。無茶苦茶に進んで行くのではない。よく準備して置いて進んで行くのが本當に健實な進歩です。其處に、人間の健實な進歩は始まるのです。赤子が手を伸して平均をとつて、倒れまいと思ふ自信力を得ることによつて、恐怖に打ち勝つ、そして、一歩を踏み出す。實に、これが進歩の第一歩です。

赤子の一擧一動には、皆、精神修養が含まれてゐま

す。赤子の行爲には精神と肉體がピッタリ合致して居ます。赤子の徐々と進歩して行く經驗には、忍耐と勇氣と云ふ道徳上の訓練が附着して居ます。ですから最初の一年間に於て、赤子は詩人ブラウニングの哲學を解して居ると云はれて居ります。則ちブラウニングの詩の一節に次のようなことがあります。

　立つためにころび
　よりよく戰ふために負ける
　目ざめるために眠る

獨立、則ち、一人歩きをしようとする決心が赤子に出來た時に、それ迄の水の泡のやうなあはい喜びが確實な喜びとなります。なぜかと云ふと、赤子でなく大きな子供でありたいと云ふ烈しい慾望が實現する第一歩でありますから。抱かれて居る子供が、下へ下せと親にせがむのは、獨立しようとする希望の表現であるのです。

自分自身の實際の力よりも、より多くをして見たい又、して見せようとする慾望は赤子の時から老年になつて死ぬ迄續くものです。

赤子が大きな子供でありたいと云ふ慾望を起した時には、もう、赤子ではないのです。其の時には　丁度、繭から蝶が飛び出したように、赤子の狀態を脫した時です。

そして、美しい空想界に入らうとする時期が此の時から始まります。

子供の行爲を親が有識無意識のうちに肯定したり、又は否定したりすることに對して、子供は自己保護のために或ひは自己主張のために、一種の判斷力を得て行き、そしてそれが子供の良心をかたち造つて行くものであることを私達は承知して居たいと思ひます。



プロレテリアをかつぐ山川菊榮氏へ

大阪毎日新聞から依頼を受けて私は「日本に於ける婦人問題及び運動」と云ふ一篇を書いた。それを概略すれば、我が國にも明治初年の頃から婦人の權利伸長のために氣を吐いた婦人があつたが、併し、それは眞に嗤ふべき粗野な男性化婦人であつたこと。婦人問題を取り扱つた男子も幾人かはあつたが、併しそれは所謂男子の婦人論であつて我々婦人から見れば痒い處へ手の屆かない恨みがあつたこと。又、所謂閨秀作家と云ふものがあつたが其の力は微弱で到底我々婦人全體の位置の向上と云ふ處には何等の影響もなかつたこと。矢島楫子氏の男女の道德律を一にしようとする每年の對議會の運動には有益なものには相違ないが、併しあれは婦人運動と云ふよりは、むしろ、基督敎の矯風運動である。と云ふことを述べて來て、それから、日本に於ける婦人問題及び運動に對する平塚明子氏、與謝野晶子氏、及び山川菊榮氏の位置を定めるに付て、何と云つても平塚明子氏は我が國に於ける眞の意味の婦人問題の提供者であつたこと、與謝野晶子氏は婦人の所謂個人權の範圍を、つまり、輸入思想の範圍を出て居なかつたこと、そして、「山川菊榮氏の偏狹な非常識な頭は到底私共婦人全般の利益と幸福とを抱擁するに足りない」と斷定して置いた。

で、私が敢へて菊榮氏を非常識と云つた其の理由を(大阪毎日へ送つた原稿には書かなかつたので)此處に一言云つて置く義務を私は感じる。

そして、それには菊榮氏が發表したもの丶うちで最近のものを例にとるのが最も便利であらうと考へる。

「解放」十二月號所載山川菊榮氏の「一九二二年の內

外婦人界」のうちに

「山田わか氏は曾て東京市電從業員のストライキを憤つて、彼等を鎭壓するために軍隊の出動を要望された人物である。市電從業員が其の最愛の妻や子のためにパンの保持を得ようとした謙抑な要求は、山田氏の眼には、ブルジョアの主權に對する許すまじき叛逆と映じたのである。ストライキの鎭壓による勞働者の家庭の破滅、或は産褥に横はり、或は乳呑兒を抱く妻達や幼兒等の飢に泣き、寒さに泣く叫びは、氏の耳にはブルジョアの凱歌のように快い響きを傳へたに相違ない……」と云ふ一節がある。

菊榮氏の毒舌は決して珍らしいことではないし、それを取り上げてかれこれ云ふのは馬鹿々々しい極みであるような氣持ちもするが、併し前に云つた「日本に於ける婦人問題及び運動」に對する菊榮氏の位置を斷定したに付てそれに對する理由を述べる義務と、二ツには、世の中には隨分頭の單純な人間が澤山あつて、自分の頭でものゝ眞相を極めずに、人が書いたものを其のまゝ鵜呑みにして、とんでもない誤解をして居ると云ふことは今迄にも澤山例のあることだし、其の上に、又此の機會を利用して、菊榮氏が私の名に附して居るブルジョアと云ふ言葉を私は菊榮氏に返却して置かうと思ふ。

前にあげた菊榮氏の毒舌を見た時に、私は私自身が毒づかれたと云ふよりも、むしろ、人間性と云ふものが侮辱されたように感じた。そして、其の次の瞬間には、否、菊榮氏が我々萬人の所有してゐる人間性を惡魔と云はうが、神と云はうが、人間性其のものが針の先き程の影響も受けるわけではないから、其れはどうでもよいと考へ、それから其の次には、一體菊榮氏はあの文章を本氣で書いたのか？　それとも唯單に若い者を煽動しようがためか？　或ひは又、心にもない筆の先きのいたづらかとも疑つて見た。

けれども、まだ、二十歳前後の血氣にはやる時分なら、單に筆を弄することの興に乘つて心にもないことを書いてしまうと云ふことがあつても菊榮氏の年輩でそんなことがある筈もない。そんなら、若い者を煽動するのが目的か？　それ程に菊榮氏は下劣ではあるま

い。こう考へて來ると矢張り菊榮氏は其れを本氣で書いたと思はなければならない。そして本氣だとすると實に其の非常識に呆れないわけには行かない。そして菊榮氏自身のために惜しむ。

　人は、皆、其の顔かたちに相違があるように其の考へにも相違がある。けれども、顔かたちに相違があるのは細い點であつて、大體に於ては皆同じかたちをして居ると同じように、考へには相違があつても、其の考への裏面に流れてゐる情緒と云ふものは萬人に共通なものである。私共が、殊に、女性が何かことを爲さうとする時には、それが個人的のことであれ、社會的のことであれ、其の情緒が燃へて情熱となり、其の情熱が動力となつて私共を活動せしむるのである。

　であるから、或る一ツの問題に關して甲婦人は右と云ひ、乙婦人は左と云ひ、其處に大きな差があつても併し、其の兩婦人にさう云はしむる動力は、同じように社會の幸福を冀ふ情緒から來て居るものであると云ふことを私共は、殊に女性は、常識があるなら承知して居る筈である。けれども、菊榮氏には其れが分らないのであるから、それで私は菊榮氏は非常識だと斷定した。

　盗みを目的に他家へ忍び入つた盗賊が幼兒の顔に見惚れて居るうちに捕へられたと云ふ話を聞いたことがあるが、たとへ、極惡非道な惡人でも、幼兒には心を和げられる。それが人間性なのだ。殺し合ふことを目的に敵と味方が對峙しても、いざ敵の命を取ると云ふ場合には惻隱の情が沸くと云ふ。それが人間性なのだ。そして、其の人間性を理解してゐる人が常識を備へてゐる人なのだ。けれども、其の人間性を理解出來ないのであるから、私は菊榮氏を非常識と云ふ。

　「乳呑兒を抱く妻達や幼兒等の飢に泣き寒さに泣く叫びはブルジョアの凱歌のように快い響き……」と云ふような無慘な言葉をよくも菊榮氏が考へ得たことよと私は其の點だけは感心してゐる。

　東京市民對市電從業員の爭ひと云ふことになつたあの場合に菊榮氏は市電從業員の味方となつて居たつもりだつたのだらう。私としても市電從業員の要求が正當なものであり、相當な順序を踏んでのストライキで

あるならば市民の苦しみは止むを得ないものだと思つてゐる。けれども、市電從業員が市民に對して何等の辯明も、豫告もせずに突然電車の運轉を止め、丁度、足をもがれたと同樣な市民の苦しみを無視して、剩さへ「東京市民を敵として」と宣言して居るので、市電從業員がさう云ふ劍幕であつたのでは電車が動き出すのは何時になるか分らない。そして、冬の最中の寒空に學校へ通ふ子供、諸官省や會社や其の他の仕事場へ通ふ人達の難義はいつ除かれるか、其の見當さへ付かないので其の難義を一時救ふためには壯丁の手が必要だが、其の壯丁は軍隊に澤山居るのであるから、軍隊に居る壯丁に電車を動かして貰つたらいゝだらうと云つたのである。

地主、則ち、ブルジョアの家に生れて、勞働と云ふことに經驗がなく、結婚をして自分の家を持つても常に幾人かの下女を使つて雪が降ろうが電車が止まらうが屋内にフーンワリと温く坐つて居ることの出來る菊榮氏には其の日々々稼がなければならない、雪が降らうが嵐であらうが家を出て働かなければならない人々が電車が止まつたためにどの位ひ難義であつたかと云ふことは到底想像が付かなかつたゞらう。

前にあげた菊榮氏の文章を讀んだ私の友人は「あのストライキの時には自分は會社へ通ふのに朝夕三時間位ひづゝ歩かなければならないので本當に途中で泣いてしまつたが、菊榮さんは外出の必要があれば自動車に乘れる身分だから何の痛痒も感じないわけだ」と云つて居た。

菊榮氏はいつも〳〵ブルジョアとプロレタリアと云ふ言葉を並べて使つて、そして、自分がプロレタリアであるように私がブルジョアであるように云つてゐる。併し、一體、何を標準にさう云ふ階級を付けて居るのか分らない。生立から、又、現在の生活ぶりから云ふならば菊榮氏がブルジョアで私がプロレタリアなのだ。なぜなら菊榮氏は地主の家、則ち、ブルジョアの家に生れ、我が國に於ける最高な(女子としては)學問を親からさせて貰ひ、そして、自分の家庭を持つてからは常に幾人かの下女を使つて菊榮氏自身の所謂ブルジョアの生活をしゐてるのではないか。

私は、親も子も朝から晩迄働いて居なければ食へない農家に生れて、其の頃の義務教育尋常四年迄しか學校へはやつて貰へず、娘時代には農事の合間々々に裁縫の師匠の許へ通はせて貰ふのがせい一杯で、田の草も取つた。人糞を掴んで麥まきもした。親の膝下を離れてからは下女奉公は勿論のこと職工生活もしたし、其の外、社會のどん底に居てあらゆる人間苦をなめつくして來て居る。今は、仕事の種類こそ其の時分の仕事とは異つてゐるが、併し、仕事に對する精神と思ひ日々の生活に對する態度と云ひ昔と少しも變つて居ない。

殊に、肉親の者達が肥桶をかついで生活して居るので、私の日々の仕事に對する氣持ちも矢張り肥桶をかついで居るのだ。

ブルジョアのお孃さんの菊榮氏に其の氣持ちが分るかしら。分らないだらうと思ふ。嫌やな仕事は下女にさせて自分はブルジョア式を發揮して白い手をして居るのだから、いやしくも社會主義を標榜して居る以上は一生懸命、人を陥れて迄も、勞働者に同情あるような言說を吐いて居なければ其の位置が保てないのだらう。生れから生立から現在に至る迄徹頭徹尾勞働者であり無產者であり、菊榮氏の所謂プロレテリアである私は其の所謂プロレテリアに同情があるのないのと云ふそんな呑氣なスキマが自分と所謂プロレテリアとの間に存在しない。自分が其の所謂プロレテリアであるのだから。ものゝ眞相を見ることの出來ない菊榮氏であるから又私に向つて「お前も下女を使つて居た」と云はれるかも知れないから一言斷つて置くが私は勉學を目的としてゐる若い娘や又は肉親の娘に家事の手傳ひをさせはしたが、併し、まだ、所謂下女と云ふものを使つたことがない。

私が勞働者に對して不服がましいことを云ふ時には我が子の不行儀又は無責任を憤る親の氣持ちであるので、同情なぞと云ふなまぬるい感情を通り越して實に痛ましい氣持ちであるのだ。其の氣持ちが菊榮氏に分るかしら。子を持つた經驗はあつても非常識であるから菊榮氏には其の氣持ちは分らないだらう。

淺薄な觀察をし、皮相な言辭を弄して識者の嗤ひを

買ひ、一方には、無智な者を誤まるような態度を私は菊榮氏のために惜しむ。

此處に一言付け加へて置きたいことは、一體、プロレテリアと云ふ言葉は何を意味して居るのであらう。世界の勞働者則ち被雇人がプロレテリアであると云ふけれども、其の勞働者のうちでも雇ふ人と雇はれる人とが無限に重なり合つてゐる。同じ勞働者であつても嫌やな仕事は皆自分よりも弱い人間に押し付けてゐる。菊榮氏が家庭の雜務を下女に押し付けて居るように。

獨逸の勞働者は嫌やな仕事は伊太利人に、伊太利人が嫌やな仕事は希臘人に、希臘人が嫌やな仕事は印度人にさせて居ると云ふことである。そして、それは英國でも佛蘭西でも合衆國でも日本でも同じことである嫌やな仕事は皆自分よりも弱い人間に押し付けようとする其の精神は決してプロレテリアではない、所謂ブルジョアの精神であらう。して見ると事實から云へば所謂プロレテリアとは自分よりも弱い者を利用して居ながら、自分よりも割りのいゝ位置に居る人をブルジョアと漫罵する階級の人である。けれども、本當の意味のプロレテリアは決してさう云ふ精神のものではないだらう。

【編輯の後】　本號の表紙も亦赤堀千代子さんのお手になつたものです。

〇卷頭論文が長かつたゝめに『海外視察談』も『消費組合運動』も「教育社會學」も皆犧牲になつてしまつたことを讀者諸士に御詫します。

〇それから本誌創刊號以來毎號御執筆下さつた原田琴子さんのものが本號に限り無いことは淋しい極みでありますが、御原稿が頂けなかつたことに付ては本當に悲しい〴〵ことが御座いましたのです。十一月の上旬でした。琴子さんの御良人から琴子さんが猩紅熱にかゝつて入院なさつたと云ふ御知らせを受けした。「まア二人のお子さんは！」と私共は異口同音に叫んだのでした。それから四五日すると、又、琴子さんの御良人から、次男（本年二月生れ）が肺炎にかゝつたと云ふ御知らせを受けました。私達は驚愕しました。其のお子さんはとう〴〵一度もお母さんの溫い懷に抱かれずに御逝去なさいました。お母さんの御留守中小さい柩を送り出す私達は本當に斷腸の思ひを致しました。それでも琴子さんはもう殆んど御全快で此の雜誌が出る時分には御退院になる筈で御座います

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵稅は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年十二月廿三日印刷納本
大正十二年一月一日發行

編輯兼發行人　東京四谷區南伊賀町四一　山田嘉吉
印刷人　東京神田區仲猿樂町十七　大杉直次郎
發行所　東京四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社　振替東京五三六八八

英語 獨、佛、西 羅甸初歩 自由教授

○予が教授の趣意○

○予が英語教授の目的は、一般士人たるに必要な根本の智識を、主として英書に依つて獲得せんとする篤志者に對し、之を補助し之を奬勵するにある

○予が多年の經驗に依れば、撰擇宜しきを得た若干の書籍を、適當な順序で正確に讀破することに、専門家たるを要せぬ一般讀書子に取りて、眞に多大の効果がある。『今日の眞の大學は印刷した書籍の倉庫である』とカーライルは云つた、讀書子は大學に入らずに、能く學者たるの識見を養ひ得ることは、今や何人も之を認むる所である。現代の多くの男女にとりて、大學や高等の諸學校に入るは容易のことではない。故に學校以外にある篤學の士は、最も善き種類と最も適當なる課程の讀書に、其餘暇を利用し、獨り靜かに智識を貯ふべきである。

○故に予は、書籍の撰擇と讀書の順序とに、特別の注意を拂ひ、以て篤志な獨學者の友となり、他日その人をして、如何なる社會に立つとも、決して恥かしくないだけの學識を修得させたい考である。

○特に予は、篤學な婦人の爲に、婦人問題の研究を勸めたい。苟くも現代、進歩主義の男女にして、予が如上の志を諒とする諸君は、予が私塾に於て、有ゆる便宜と厚遇とを享くるの特權を有する。

◇略則

△教授科目□日用英語□英文學□政治、經濟、法律、哲學□宗教□社會學等に關する英文名著の精讀及び講義□獨、佛、西、及び羅甸語初歩

△時間（午前八時より午後八時まで）

△休日（土曜、日曜及び祭日）

△月謝□二十分間五圓□四十分間十圓

○入學の日より其翌月の同日までを一ヶ月とし總て前納の事

△束修 金貳圓

□尙ほ英文和譯、和文英譯の需めに應ず

東京市四谷區

南伊賀町四一

山田嘉吉

婦人倶樂部

新年號（別冊特別附録つき）

「束縛より解放へ」自由思想の潮流に掉し、新時代に常に先んじて意義ある生活を營まんとする諸姉の好伴侶は實にこれ！

○新らしき日本婦人の道

●婦人である前に先づ人間である……大迫元繁
●神の命なる義務……室伏高信
●日本婦人文化の創造……吉村せい子
●男子の立場から……石丸梧平
●進むも退くも誠の一路……中島德藏
●貧しくとも自分の生活……三宅やす子

○美はしくも尊き婦人の力

○私を一喝した奥村女史……山脇玄
○身に泌む母親からの勸當……石黑忠悳
○忘れ得ざる二婦人……山室軍平
○敬服すべき三敎育家……井上哲次郎
○大慈大悲の觀世音……新井石禪
○健氣な母の面影……千葉龜雄
○女は弱しされど母は強し……石川星影
○義理と人情戀の柵 名篇十數篇
○新春娯樂演藝大會 好讀物豐富
○年末年始模範的家庭行事（名士）

別冊特別大附録

○之れを知らねば婦人一生の損

緣談結婚社交處世の要訣

●夫として賴もしい男……幸田露伴
●花嫁の資格十二ケ條……
●見合の仕方……細川辰彦
●浮世のかゞみ妻の樣々……松村介石
●夫の機嫌の取方動かし方……鳩山春子
●訪問社交應對の心得……池田曲子
●家政經濟處世……十數篇

人相手相合性運命斷定

●運命は誰にも豫測出來る……遠藤隆吉
●一目で分る合性和合の相……石龍子
●幸不幸の刻まれた手相判斷……白眼子
●必ず思當る人相と運命……小西久遠
●處世の指針日の吉凶……矢島半峰
●迂濶に出來ぬ家相方位……小川義通
●生れ月日と人の運勢……安倍雪山
●代表的人物人相運命判斷……山本謙堂

定價金壹圓 本號特價 送料五錢

東京本郷駒込坂下 **大日本雄辯會**發行 振替東京三九三〇

新時代の理想的高級繪雜誌

美しい美しい新年號が出來ました

コドモノクニ

この特色あり

▲斯道諸大家揃ひの分擔執筆

▲色彩が和く字句の注意周到

▲判が大きく紙が厚くて上等

▲頁が多くて印刷製本が精巧

本號執筆大家

巖谷小波先生
岸邊福雄先生
野口雨情先生
水谷まさる先生

蕗谷虹兒畫伯
竹久夢二畫伯
岡本歸一畫伯
清水良雄畫伯

本田庄太郎畫伯
鈴木（武畫伯）
小島三好畫伯
武井武雄畫伯

當選童謠

山田利夫君
根本嘉彦君

新年大附錄「お客さま双六」

繪雜誌中で一番大きい美しい附錄

東京市京橋疊町一
振替東京四九〇〇
東京社
本號に限り定價五十錢郵税一錢五厘